

研 究

所謂結核県石川の結核患死者数の動向と これが豫防撲滅諸対策の効果

家政学部衛生研究室

医学博士 土 屋 忠 良*
家政学士 森 田 道 子**

(本論文の要旨については、昭和32年3月卒業論文発表講演会において、その大様を森田道子より口演した。)

第一章 緒 論

結核 Tuberculosis. (Tuberkulose) T.B はその症候が、咯血 Hæmoptysis (Hämoptoe) を始め種々特異な病状を呈すること、歴史的にも相当に名だたる有名人士が本病で倒れ居る記録等がある為か、口碑、小説等にも痛く大きく使用宣伝せられ来つた。1882年(明治15年)に独の Robert Koch が Mycobacterium tuberculosis を発見、1種の Infectious Diseases (Infektions-Krankheiten) なりと主唱したるにも拘わらず、相変らず衛生知識の不徹底に禍せられてか、hereditary disease (erbliche krankheit) であり、不治の疾病 incurable disease であるとさえ申し伝えられ来つたことは否められない事実であつた。

それかあらぬか、日本に於ける諸疾病中、T.B の淫侵は殊の外に高く death rate (Mortalität) 亦長年に亘り世界の最上位をつづけ来つたことは誠に遺憾に堪えないところであつた。

殊に北陸に位置する石川県は、従来風土、地勢、生活、環境、栄養、労働等々の影響からか日本最高位の T.B 蔓延県で Sick rate (Morbidity), death rate (Mortality) は共に日本全国第1位で、所謂結核県石

川として伝えられ来つたが果して然るか、これが真偽を突き止め、其後に於ける T.B 患死者の動向とこれに対する予防撲滅諸対策の効果如何を研究すべく本調査の施行に当つた次第である。

第二章 調査研究方法

本調査は、専ら昭和初年以來、石川県立10保健所、2健康相談所及び金沢市立保健所等より石川県に報告せられた、人口動態統計月報、法定伝染病及び結核患死者日報、結核集団検診成績等を最優良の資料とし、県及び郡市の人口につきては、毎年国勢調査が施行し居られざるにつき、便宜総理府統計局発表の推計人口を採用し諸統計を作製した。

第三章 結核の罹患状況

T.B の患者数並に同 Sick rate (Morbidity) に就いては、全県民の1人1人につき徹底した強制精密検診 close medical examination の施行が不可能であるから正確に罹患状況を了知するを得ない大きなうらみがある。

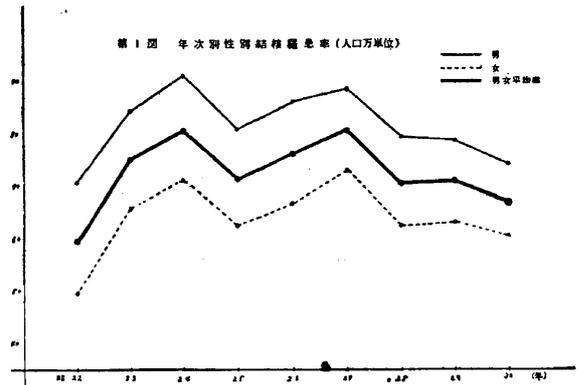
それ故に、世界の各国を通じ、一般的にはその地域内に於ける1ヶ年間の T.B 死亡者数の10倍を、その地域に於ける T.B 患者数と見做すクリーゲル氏係数を採用し来つたのであるが、余等は実際に近からしめるべく、差当り結核予防法規定の診断医師の届出を先ず一番確実な参考資材と見做し、本調査に当ることとした。

* 本学教授

** 昭和31年度本学卒業生

第一節 全国対石川県 T.B 罹患率

前述の基準による厚生省発表の全日本の人口万対T.B sick rate は、昭和23年には患者数 382810, sick rate (Morbidity) 47.9 であつたが、昭和24年には (464,903人) 56.8, 昭和25年には (528,832人) 63.6, 同26年には (590,662人) 69.8 と年次増率し、昭和27年には (586651人) 68.3 と少々低下の傾向を呈したのに拘わらず石川県に在りては、第1表に示すが如く、T.B



第一表 石川県に於ける年次別・性別 T.B 罹患率 (人口万対率)

年次		昭22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
男	罹患数	3131	2825	4202	3728	3947	4072	3662	3680	3443
	罹患率	70.5	84.3	91.0	80.8	86.1	88.7	79.3	78.9	74.3
女	罹患数	2410	3201	3515	3090	3319	3616	3111	3157	3032
	罹患率	49.9	65.6	71.0	62.3	66.8	73.0	62.4	63.1	60.3
計	罹患数	5541	7026	7717	6818	7266	7688	6773	6837	6475
	罹患率	59.7	74.6	80.7	71.2	76.0	80.6	70.5	70.7	67.0

の sick rate は、年次的な著しい増減を呈せざるも、毎年度大体人口万対 70.0~80.0 の high rate をつづけ、毎常全国の夫を遙かに上廻っている。

第二節 性別 T.B 罹患率

石川県に於ける T.B 罹患状況を性別に観るに (第1表) 男子の Sick rate は、各年女子の夫よりも遙かに高く、男女総数の Sick rate は大体人口万対 70.0~80.0 の間に在つて年次的の著しい増減は認められない。

第三節 年令別 T.B 罹患率

T.B の Sick rate (Morbidity) を年令別に観るに、第2、第3表に示す通りであるが、更に之を便宜0才~14才の幼小児層と、15才~29才の青少年層、30才~49才の壮年層、50才以上の老年層の4階級に分ちて之を観察するに、従来一般に maximum rate をつづけ来つた青少年層は却つて漸減の好成績を挙げ居るに拘わらず、老年層が却つて漸増の一途を辿り居るばかりか、幼小児層及び壮年層に意外の high rate を示し居ることは頗る興味あり、警戒を要するところである。

第2表 年次別、年令別、結核罹患率 (人口万対率)

年度別	年令別	昭22年	昭23年	昭24年	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年
0~9才	罹患数	378	447	655	646	898	1184	1020	1194	1156
	罹患率		20.3	29.8	27.8	37.3	51.2	42.1	49.3	52.5
10~14	罹患数	292	311	338	307	344	627	458	545	608
	罹患率		32.4	35.2	32.6	36.6	66.7	49.0	58.3	57.7
15~19	罹患数	672	869	802	692	673	732	556	511	513
	罹患率		91.5	84.4	76.0	74.0	80.4	60.9	55.9	61.9
20~24	罹患数	1188	1681	1602	1354	1211	1209	988	886	722
	罹患率		202.5	193.0	167.2	149.5	149.3	122.2	109.6	90.8
25~29	罹患数	1000	1247	1398	1273	1207	1113	1016	924	774
	罹患率		204.4	229.2	187.2	177.5	163.7	149.7	136.2	102.5

30~34	{罹患数 {罹患率	758 143.4	846 141.2	833 122.8	737 125.8	755 129.0	774 123.5	743 115.0	702 97.8	630
35~39	{罹患数 {罹患率	439 99.6	568 114.0	650 104.7	628 98.7	592 101.7	610 84.3	508 85.8	516 81.8	465
40~49	{罹患数 {罹患率	459 60.8	620 82.2	838 64.2	655 77.1	786 80.0	816 72.4	735 77.4	786 67.6	733
50~59	{罹患数 {罹患率	235 38.8	314 50.2	407 45.0	324 65.6	472 53.6	386 59.9	433 59.6	429 57.9	468
60以上	{罹患数 {罹患率	120 14.5	123 22.8	194 23.2	202 37.7	328 27.2	237 36.2	316 39.4	344 43.9	406
計	{罹患数 {罹患率	5541 59.7	7026 74.6	7717 80.7	6818 71.2	7266 76.0	7688 80.6	6773 70.5	6837 70.7	6475 67.0

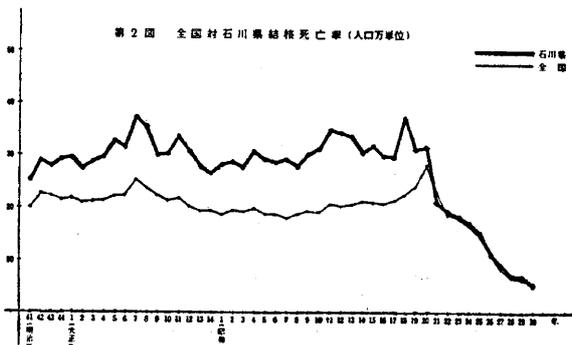
第3表 年令・階級層別 T.B 罹患率表 (人口万対率)

	昭22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
幼小児層		26.4	32.5	30.2	36.9	58.9	45.6	53.8	55.1
青少年層		166.1	168.9	143.5	133.7	131.2	110.9	100.6	85.1
壮年層		101.3	112.5	97.2	100.5	103.6	93.4	92.7	82.4
老年層		26.7	36.5	34.1	51.7	40.4	48.1	49.5	50.9
計	59.7	74.6	80.7	71.2	76.0	80.6	70.5	70.7	67.0

第四章 結核の死亡状況

第一節 石川県に於ける T.B 死亡率

石川県に於ける T.B death rate (Mortality) は、第4表に示すが如く明治の末期より大正を通し、昭和20年に至る長期間に亘り、人口万対30.0前後の high rate をつづけ、全国の20.0前後に比べ極めて高く、殊に昭和18年(1943年)には実に37.3と云う昭和時代には入つての maximum rate を示し、強嘆させられたところであつた。石川県に於ては昭和16年迄の惨害を遺憾とし、之を救済すべく昭和16年(1941年)に結核予防特別対策を樹立し、急速なる実施に移されたのであるが、これが大いに功を奏してか、それ以降に於ては全国のそつと正比例し年次漸減の好成績を辿り、



第4表 全国・石川県年度別結核死亡率一覧表(人口万対率)

年度別	区分		年度別	区分	
	石川県	全国		石川県	全国
明治41年	25.3	20.0	昭和7年	29.1	18.0
42	28.9	22.8	8	27.9	18.8
43	28.0	22.4	9	30.2	19.3
44	29.4	21.5	10	31.3	19.1
大正1年	29.5	21.9	11	34.9	20.7
2	27.5	21.0	12	34.4	20.3
3	28.8	21.2	13	33.6	20.6
4	29.6	21.3	14	30.5	21.2
5	32.9	22.1	15	32.4	21.0
6	31.5	22.2	16	29.9	20.9
7	37.0	25.3	17	29.7	21.5
8	35.3	23.6	18	37.3	22.5
9	30.0	22.4	19	31.1	24.1
10	30.2	21.3	20	31.6	28.2
11	33.6	21.7	21	21.2	23.1
12	30.6	20.1	22	19.4	18.8
13	27.7	19.3	23	18.3	18.1
14	26.7	19.4	24	17.1	16.9
昭和1年	28.2	18.7	25	15.2	14.6
2	28.6	19.5	26	11.2	11.0
3	27.7	19.2	27	9.2	8.2
4	30.6	19.7	28	7.0	6.7
5	29.1	18.6	29	6.9	6.2
6	28.7	18.6	30	5.1	5.2

第5表 性別 T.B 死亡 率 (人口万対率)

性別		年度別								
		昭22年	昭23年	昭24年	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年
男	死亡数	991	934	864	736	552	454	360	353	265
	死亡率	22.3	20.6	18.7	16.0	12.1	9.9	7.8	7.6	5.7
女	死亡数	797	790	767	710	519	421	312	312	221
	死亡率	16.5	16.2	15.5	14.4	10.4	8.5	6.2	6.2	4.4
計	死亡数	1788	1724	1631	1452	1071	875	672	665	486
	死亡率	19.4	18.3	17.1	15.2	11.2	9.2	7.0	6.9	5.1

昭和30年(1955年)には始めて5.1と全国の5.2以下の大好績を挙げるに至つたことは注目せられるところである。

第二節 性別 T.B 死亡 率

石川県に於ける終戦間もなき昭和22年(1947年)より同30年(1955年)に至る T.B death rate は漸減の大好成績(第5表)を示し、殊に性別には Sick rate (Morbidity)同様、男性は女性より毎常 high rate である。

第三節 年令別 T.B 死亡 率

T.B の death rate を年令別に観るに、30才~40

才の所謂壮年層の者が relative high rate の death rate を示し居るに拘わらず、従来一般的に high rate と云われ、警戒せられ来つた15才~29才の青少年層者は、却つて年次漸減の一途を辿り居ることは著しく興味ある事項である。

更にこの事項を総括的に観るに、昭和22年(1947年)に於ける T.B death rate は人口10,000対19.4の高率であつたが、年次漸減して同30年(1955年)には22年(1947年)の約4分の1程度の5.1に低下したことは、全国的の低下と同一の歩調をとつた次第であつた。

第6表 年令別 T.B 死亡 率 (人口万対率)

年次別		年令別										計
		0~9才	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59	60以上	
昭22年	死亡者数	123	40	191	356	267	236	174	182	129	90	1788
	死亡率	11.5	4.0	20.6	45.4	41.2	38.1	29.3	37.7	36.0	10.9	19.4
昭23年	死亡者数	119	36	166	332	28.5	223	156	180	140	86	1724
	死亡率	5.4	3.8	17.5	40.0	46.7	37.8	27.4	17.6	17.3	10.0	18.3
昭24年	死亡者数	121	31	147	294	244	178	160	201	154	101	1631
	死亡率	5.4	3.2	15.5	35.4	40.0	30.2	28.1	19.7	19.0	11.7	17.1
昭25年	死亡者数	134	24	100	232	213	160	151	191	140	107	1452
	死亡率	5.4	2.6	11.0	28.6	31.1	26.7	25.2	18.7	19.4	12.3	15.2
昭26年	死亡者数	113	16	78	147	153	124	98	147	101	94	1071
	死亡率	4.5	1.7	8.6	18.1	22.5	20.7	16.3	14.4	14.0	10.8	11.2
昭27年	死亡者数	64	14	49	106	114	101	84	116	100	127	875
	死亡率	2.6	1.5	5.4	13.1	16.8	16.8	14.0	11.4	13.9	14.6	9.2
昭28年	死亡者数	38	7	24	74	79	61	56	121	110	102	672
	死亡率	1.6	0.7	2.6	9.2	11.6	10.1	9.3	11.9	15.3	11.7	7.0
昭29年	死亡者数	31	11	25	73	74	88	48	107	90	118	665
	死亡率	1.2	1.2	2.7	9.0	10.9	14.6	7.9	10.5	12.5	13.5	6.9
昭30年	死亡者数	15	6	13	35	40	60	46	85	63	119	486
	死亡率	0.7	0.6	1.6	4.4	5.3	9.3	8.1	7.7	7.8	12.9	5.1

第四節 石川縣 T.B 死亡率の全国的順位

石川縣に於ける T. B death rate は全国的に如何なる順位に在るかを検討するに、第7表に示すが如く、石川縣は自明治45年(1912年)至大正5年(1916年)の5ヶ年間の平均は、東京、京都、大阪の3府に次ぎ第4位(人口万対30.3)であつたが、自大正6年(1917年)至大正10年(1921年)の5ヶ年平均は、東京府に次ぎ全国第2位(33.2)の高率に進み、更に自大正11年(1922年)至大正15年(1926年)の5ヶ年平均は、一躍全国第1位(29.4)に上昇し、以来昭和18年(1943年)に至る約20ヶ年間は断然全国的に maximum rate の順位を保持し

たので、自ら学界並に民間からも「結核県石川」と著しく不名誉極まる名称をさえつけられたことは決して故なきには非ずであつたのである。

然るに昭和18年(1943年)~21年(1946年)の4ヶ年間は、大東亜戦争の終末に際会した關係上独り石川縣のみならず全国的にも諸統計を執る事が出来ずblankと相成つたことから T. B 死亡率の順位も承知するを得なかつたが、昭和17年(1942年)以降は、石川縣に樹立せられた「石川縣結核予防撲滅特別対策」の速刻実施が時機を得、大効を奏してか、第8表に示すが如く年次漸低の好成績を示し、昭和22年(1947年)には全国

第7表 人口万対全結核死亡順位

年 度	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
自明治45(大正元年)至大正5年	東京 (41.86)	京都 (32.29)	大阪 (31.55)	石川 (30.34)	福井 (29.85)
自大正6年至大正10年	東京 (40.28)	石川 (33.18)	京都 (32.37)	大阪 (31.87)	福井 (30.49)
自大正11年至大正15年(昭和元年)	石川 (29.36)	東京 (28.59)	福井 (25.80)	京都 (25.46)	大阪 (25.45)
自昭和2年至昭和6年	石川 (28.93)	大阪 (25.72)	京都 (25.47)	東京 (24.17)	福井 (23.12)
自昭和7年至昭和11年	石川 (30.68)	京都 (25.76)	大阪 (25.31)	福井 (24.38)	北海道 (23.95)
昭和12年	石川 (34.40)	北海道 (26.39)	京都 (25.66)	兵庫 (25.55)	大阪 (24.81)
昭和13年	石川 (33.60)	北海道 (27.13)	京都 (26.17)	大阪 (25.48)	東京 (25.37)
昭和14年	石川 (30.51)	北海道 (29.46)	京都 (26.28)	大阪 (26.19)	兵庫 (25.94)
昭和15年	石川 (32.39)	北海道 (28.57)	京都 (26.28)	大阪 (25.78)	福井 (25.02)
昭和16年	石川 (29.84)	京都 (27.12)	北海道 (26.30)	大阪 (25.71)	徳島 (24.45)
昭和17年	石川 (29.74)	北海道 (28.08)	京都 (27.78)	大阪 (25.29)	青森 (24.78)
昭和18年	石川 (37.30)				
昭和19年		(大東亜戦争により不明)			
昭和20年					
昭和21年					
昭和22年	京都 (25.27)	福岡 (24.91)	島根 (24.49)	大阪 (24.44)	山口 (23.88)
昭和23年	北海道 (23.68)	青森 (22.79)	京都 (22.14)	東京 (21.91)	福岡 (21.65)
昭和24年	北海道 (24.64)	京都 (21.58)	青森 (21.57)	岩手 (20.63)	福岡 (19.86)
昭和25年	北海道 (20.79)	青森 (20.03)	大阪 (17.49)	岩手 (17.15)	京都 (17.08)
昭和26年	北海道 (15.30)	青森 (14.59)	長崎 (14.02)	大阪 (13.48)	山口 (13.15)
昭和27年	青森 (11.04)	大阪 (10.27)	北海道 (10.26)	長崎 (10.25)	山口 (10.01)
昭和28年	青森 (9.01)	北海道 (8.59)	大分 (8.49)	長崎 (8.47)	大阪 (8.07)
昭和29年	長崎 (8.83)	大阪 (7.88)	青森 (7.84)	山口 (7.81)	福岡 (7.81)
昭和30年	長崎 (7.22)	大阪 (6.66)	北海道 (6.56)	大分 (6.55)	山口 (6.45)

第8表 昭和22年以降の石川縣の全国的順位 (人口万対死亡率)

年 度	昭22年	昭23年	昭24年	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年
死 亡 率	19.4	18.3	17.1	15.2	11.2	9.2	7.0	6.9	5.1
順 位	18	18	16	15	22	15	17	15	28

第9表 石川県主要死因別死亡順位表

疾病 昭和年	全結核		肺 炎		卒 中		老 衰		先天性弱質		心臓病		腎 炎		悪性新生物		腸チフス		赤 痢		総計					
	美数	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%		美数	%	順位		
12年	2437	13.2	1	1641	8.9	2	1392	7.6	3	1365	7.4	4	1007	5.5	5					79	0.4	9	29	0.2	10	18417
14	2235	12.7	1	1948	11.1	2	1423	8.1	3	1348	7.7	4	901	5.1	5					90	0.5	9	11	0.1	10	17542
16	2286	14.6	1	1375	8.8	3	1496	9.6	2	1276	8.1	4	708	4.5	5					66	0.4	8	15	0.1	10	15659
22	1800	11.8	1	1376	9.0	2	1234	8.1	3	999	6.5	4	601	3.9	5					25	0.2	10	39	0.3	8	15270
23	1724	12.7	1	790	5.8	4	1678	12.3	2	905	6.7	3	567	4.9	5					10	0.1	10	17	0.1	8	13549
24	1631	12.5	1	747	5.7	5	1235	9.5	2	1076	8.3	3														13015
25	1452	11.4	1	750	5.9	5	1304	10.3	2	1083	8.5	3														12703
26	1071	9.5	1	737	6.6	5	1065	9.5	2	945	8.4	3														11246
27	875	8.5	4	595	5.8	5	1328	13.0	1	992	9.7	2														10248
28	672	6.6	5	604	5.9	6	1481	14.6	1	1155	11.4	2														10159
29	665	7.4	4	468	5.2	6	1423	15.7	1	964	10.7	3														9035
30	486	5.1	5	448	5.1	6	1457	15.5	1	976	11.1	3														8769

備考 1. 総計は本表上掲死亡者数を含む各年別総死亡数である。 2. %は各年別死亡者総数に対する主要死因別百分比。

18位(19.4), 23年(1948年)にも18位(18.3)に下降し, 昭和30年(1955年)には5.1という minimum rate を示し, 全国第28位とい従来に見ない大々好成績を示すに至つたのである。

第五節 主要死因別死亡率順位

石川県に於ける主要疾病の death rate (Mortality) を終戦前後の10数年間に亘つて検討するに, 大体第9表に示すが如く全結核の death rate は, 各年を通じ毎常他疾病を大きく切り離して, いつも第1位の最高位をつづけ, 肺炎 pneumonia (Pneumoniae), 卒中 cerebral apoplexy (Schlagfluss)(中枢神経系の血管の損傷), 老衰 senility (Alterschwäche) 等が, 相前後して第2位, 第3位をくり返し来つたのであるが, 昭和27年(1952年)に至りて T. B 死亡者数は始めて1,000を割つて875と下廻り cerebral apoplexy に第1位, senility に第2位, 悪性新生物 malignant tumor (Malignom) に第3位をゆづつて第4順位に下り, 以後第4位~第5位を占めつづけるに至つたのである。

第五章 予防撲滅対策

結核予防法の規定による Tuberculosis (Tuberkulose) の届出患者数並にこれが Sick rate (Morbidity) は, 昭和の初年以來20有余年間に亘つていつも人口10,000対70.0~80.0の間をくり返し著しき増減なきに拘わらず特に石川県の T. B death rate (Mortality) は長年に亘り全国第1位の不名誉的地位に在るを遺憾とし, 昭和16年(1941年)石川県では「石川県結核予防撲滅特別対策」を樹立し, 即刻これが実施せられた由であるが, こうした石川県の衛生部当局の特別対策が大効を奏してか, 昭和16年(1941年)に於ける T. B death rate が人口10,000対29.8という至つて high rate を呈し得たに拘わらず, 年次漸低の経過を辿り, 昭和30年(1955年)には僅かに5.1という昭和16年(1941年)の約6分の1程度に, また最高の昭和

18年(1943年)の37.3の7分の1以下に激減した大好成績を挙げ得たるばかりか、年令的にも従来 high rate をつづけ来つた青少年層に著明の低下を示したことは大功績と申すべく、これが真因は何辺にありしやを検討し、余等は次の如くに結論を下したのである。

即ち、当時全国的に重視し、競つて実施せられた Health center の整備抗充、Sanatorium の新設、増床、集団検診 mass-examination の徹底、BCG の予防接種 protective inoculation (Vaccination)、化学療法、外科的療法の進歩等々に起因せられ居る事は申すまでもないが、特に石川県の諸対策を観るに、以上の諸施設、諸事業の整備遂行は勿論のこと、更に出稼帰郷者の健康指導、市町村民の健康調査、生活改善指導、模範衛生地域の指定、街頭無料検診の実施、食糧栄養品の特配斡旋、在宅 T. B 患者の訪問指導、貧困患者の療養費に対する公費負担等々を始めとし、県下の小・中学校の全教職員を対象としての T. B 予防撲滅の衛生講演、講習会の開催や保健歌を制定して全県民に T. B 予防撲滅の知識を普及したこと等の努力が斯くの如くに奏効したものならんと思はれるところである。

第六章 総括並に結論

T. B 死亡者の数並にその death rate に就いては、死者の届出、処置の関係上比較的に正確な Number and rate を了知出来得られるが、患者並にその sick rate (Morbidity) に就いては、国民の全員に対し close medical examination が不可能であるだけに、正確な実数、率が得られない憂があることから、従来は専ら T. B 死亡者数を10倍したクリーゲル氏係数を T. B 患者と推定し、取扱われて来たのである。

然るに厚生省に於ては、昭和28年(1953年)の7~10月の4ヶ月に亘り、日本全国に211地区を選び、約5万人(51,011人)を対象として始めて T. B の実態調査を試みた次第であるが、この実態調査の成績はクリーゲル氏係数による患者数の如何に不正格なものであることを判然と確認したのであるから、余等はまだまだ大正8年(1919年)に制定の旧結核予防法並に昭和26

年(1951年)制定の新結核予防法に規定せられたる医師の届出を信頼した方が遙かに正確ならんと思はれるので便宜これによつた次第である。

1. T. B 罹患率は、全国的には昭和23年(1948年)以後は年次漸増の傾向を示し居るに拘わらず、石川県に在りては大体人口10,000対70.0~80.0の間を上下し年次的には著しい増減を示さざるも毎年全国の夫を遙かに上廻っている事実を認めた。

2. 罹患率を性別に観るに、男性は大凡そ人口10,000対70.0~90.0、女性は50.0~70.0の間を上下し、男性は各年共女性より遙かに high rate である。

3. 罹患率を年令別に観るに、概して15才~29才の青少年層は漸減の一途を辿り居るが、30才~49才の壮年層以上の者に於いては漸増の傾向を示している。

4. 石川縣に於ける T. B 死亡率は、明治の末期より大正を通じ、引きつづき昭和20年(1945年)に至る長期間に亘り、大体人口10,000対30.0前後の high rate をつづけ殊に昭和18年(1943年)には、全国平均人口10,000対22.5に対し実に37.3と云う昭和年代に於ける、maximum rate を示したが、終戦間もなき昭和22年(1947年)以降は、年次漸減の好成績をつづけ同30年(1955年)には22年(19.4)の約4分の1程度の5.1に低下した。

5. 男性死亡率は22.~5.、女性死亡率は16.~4.の間を上下し、年次著しく漸低したるも男性は女性の夫よりも常に high rate である。

6. 死亡率を年令別に観るに、従来 high rate の故を以つて警戒せられ来つた15才~29才の青少年層は、年次漸低の一途を辿る好成績を示し居るに拘わらず、却つて今迄大して問題にせられなかつた30才~49才の壮年層及び50才以上の老年層に relative high rate の傾向を示し来つたことは注目に価せられるところである。

7. 石川縣に於ける T. B 死亡率を全国的に如何なる順位に在るかを検討するに、大体大正11年(1922年)以降昭和18年(1943年)に至る約20ヶ年は毎年全国第1位の最高位を持続し来つたが、終戦間もなき昭和22年(1947年)以降に於ては、時偶々樹立実施せられた「石

川県結核予防撲滅特別対策」がこの頃より大功を奏し始めてか、年次漸低の好成績を示し、全国的順位も亦昭和22年(1947年)及び、23年(1948年)には共に第18位に下降し、同30年(1955年)には遂に第28位という従来嘗て見ざる優良順位にまで下降した。

8. 石川県に於ける主要疾病による死亡率を觀るに、大体昭和12年(1937年)以降同26年(1951年)に至る大凡15ヶ年間は毎年全結核の death rate を第1位としてつづけ来たが、27年(1952年)には漸く死亡者数は従来1,000人を割り、実数875、死亡者総数に対する%は8.5となり第4位に下降し、28年(1953年)には、実数672(6.6%)第5位、29年(1954年)には実数665(7.4%)第4位となり、30年(1955年)に至つては実数486(5.1%)と昭和23年(1948年)の12.7%の約半数に減率し第5位に低下したのである。

之を要するに、大正11年(1922年)以降約20ヶ年の長期に亘り、T. B death rate が日本全国第1位の最高と云う不名誉をつづけた為に期せずして結核県石川という汚名をさえ名づけられるに至つた石川県が、終戦の昭和20年(1945年)以降は年次著しく漸低を続け、昭和30年(1955年)には全国平均(5.2)以下の5.1を示し、石川県が結核予防撲滅特別対策を樹立実施した昭和16年(1941年)の29.9に対し僅かに6分の1程度に、

また昭和時代の最高を示した昭和18年(1943年)の37.3に対し実に7分の1以下という low rate にまで引き下げた次第である。

さて、斯くの如き好成績を挙げ得た原因は何かと云うに、石川県の衛生当局が早急に特別対策を樹立し、本腰を入れてこれが実施に当られた大成績の賜であることは申すまでもなく、当然に思考せられるところである。

稿を終るに臨み、貴重な日・月報、統計書等を御貸与下さつた石川県衛生部御関係の方々に謹んで謝意を表する。

主 要 文 献

1. 石川県衛生部、石川県に於ける結核対策の回顧
2. 高崎秀雄、石川県に於ける最近5ヶ年間の結核の推移
3. 土屋忠良、疾病とその予防(1956改訂第4版)
4. 石川県、石川県届出伝染病及び結核患者日報
5. " 石川県届出伝染病及び結核死者日報
6. " 石川県人口動態統計月報
7. " 結核予防接種年報
8. " 結核健康診断月報
9. " 伝染病精密統計作成要領
10. " 結核集団検診成績